

令和7年度 社会科 1年地理 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

< 2 > 地理的分野の目標

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	C	努力を要する状況である。（50％未満）

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。（90％以上）
	4	十分満足できる状況である。（80％以上）
	3	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	2	努力を要する状況である。（50％未満）
	1	一層努力を要する状況である。（20％未満）

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①思考力・判断力・表現力の育成。→生徒の言語活動を充実させる指導。
- ②自主的・自発的な学習の促進。→体験的な学習や問題解決的な学習。 発展的な学習
- ③学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習。
- ④個に応じた指導の充実。→ 個別指導 グループ別指導 繰り返し指導 課題学習 補充的な学習

社会科 1 学年 地理的分野 年間指導計画・評価計画

【評価の観点】知識・技能＝知技, 思考・判断・表現＝思判表, 主体的に学習に取り組む態度＝態度

月	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
	第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺めて	- 地球儀や地図などを用いて、六大陸と三大洋の位置と分布や名称を理解できる。 - 海峡や運河、山脈などによって、世界は六つの州に区分されることを理解できる。	- 六大陸と三大洋および六つの州について、それぞれの位置や分布、名称を理解している。（知技） - 海峡や運河、山脈などによって、世界は六つの州に区分されることを理解している。（知技）
	2 世界のいろいろな国々の特徴	- 地図帳を用いて、世界の主な国の位置と名称を理解できる。 - 世界の主な国々の特徴を、空間的・文化的な背景などをもとに考察し、説明できる。	- 地図帳を用いて、世界の主な国の位置と名称を理解している。（知技） - 世界の主な国々の特徴を、その国々の位置関係や自然環境、面積や人口、国名、国旗、文化、歴史などから考察し、説明している。（思判表）
	3 緯度と経度	- 地球上の位置を緯度・経度を使って表現できる。 - 地図帳のさくいんを使って、位置を調べることができる。	- 緯度と経度のしくみを理解し、地球上の位置を緯度・経度を使って表現している。（知技） - 地図帳のさくいんを使って、世界の主要都市の位置を調べ、表現している。（思判表）
	4 地球儀と世界地図の違い	- 地球儀とさまざまな図法の世界地図を比較し、地球儀と地図の違いを理解し、正しく活用できる。 - 世界地図は方位や面積、距離、形などを一度に正しく表せないことに気づき、地球儀と世界地図の長所と短所を考察できる。	- 地球儀と世界地図の違いを方位や面積、距離などに着目して理解し、正しく活用している。（知技） - 緯線と経線が直角に交わる地図が、緯度が高くなるほど実際の面積より大きく表されている理由について考察している。（思判表） - 地球儀と世界地図に違いが生じる理由や、さまざまな種類の世界地図があることについて、多面的・多角的に考察している。（思判表）
	学習を振り返ろう ■ 1章の問い ■ 世界にはどのような国があり、その位置を表すには、どのような方法があるのだろうか。	- 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などをもとに、世界の地域構成を大観し理解できる。 - 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。	- 世界の六つの州と主な国の位置と名称や、緯度と経度のしくみを理解し、地図帳のさくいんや統計資料を活用している。（知技） - 国名や国旗、国境線の特色から、その国の歴史や文化がわかることや、さまざまな種類の世界地図の特色を考察している。（思判表） - 地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について、そこにみられる課題を主体的に追究しようとしている。（態度）

	第2章 日本の姿 1 世界のなかでの日本の位置	・世界における日本の位置を、緯度・経度やほかの地域からみた位置関係から理解できる。 ・地図帳や地球儀などを活用し、日本の位置をさまざまな方法で説明できる。	・世界における日本の位置を、緯度・経度やほかの地域からみた位置関係から理解している。（知技） ・地図帳や地球儀などを活用し、日本の位置をさまざまな視点から表す方法を考察し、表現している。（思判表）
	2 日本と世界各地との時差	・標準時や時差のしくみを理解し、等時帯を示す地図を正しく読み取り、理解できる。 ・時差や等時帯が定められている理由を考察できる。	・世界各地の標準時はどのようなしくみで定められているのかを理解し、等時帯を示す地図に基づいて日本と世界各地の時差を正しく読み取っている。（知技） ・標準時や時差が定められている理由を、生活場面と関連づけて考察し、表現している。（思判表）
	3 日本の領域とその特徴	・排他的経済水域の意味を確認し、日本の領域と排他的経済水域の範囲や日本の領域の特徴を理解できる。 ・日本の領土を理解し、領土についての経緯や課題などを多面的・多角的に考察できる。	・日本の領域の範囲を確認し、国土面積の10倍以上の排他的経済水域があることを理解している。（知技） ・北方領土や竹島、尖閣諸島について、歴史的な経緯や課題などを多面的・多角的に考察している。（思判表）
	4 都道府県と都道府県庁所在地	・日本の都道府県と都道府県庁所在地名とその位置を理解できる。 ・都道府県の境界はどのような場所に定められているのか、多面的・多角的に考察できる。	・日本の都道府県と都道府県庁所在地名とその位置をさまざまな関係とともに理解している。（知技） ②都道府県の境界が定められている場所について、地理的な条件や歴史的な背景などから多面的・多角的に考察している。（思判表）
	学習を振り返ろう ■ 2章の問い ■ 日本の位置や広がりには、どのような特徴があるのだろうか。	・日本の地域構成に関する基礎的事項を確認する。 ・日本の地域構成に関して、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。 ・世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究する。	・世界のなかでの日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界のなかでの日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し時刻を求めたりすることができる。（知技） ・世界のなかでの日本の位置や広がりや、日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察している。（思判表） ・世界のなかでの日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。（態度）
	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 1 世界のさまざまな生活と環境	・世界各地の衣食住の様子から、世界にはさまざまな自然環境の地域があることを理解できる。 ・景観写真や雨温図、主題図を活用し、世界各地の生活の特徴を気候から考察できる。	・世界各地の自然環境の様子と関連づけて人々の生活の特徴を読み取っている。（知技） ・景観写真や雨温図、主題図を活用し、世界各地の生活の特徴を気候と関連づけて考察している。（思判表）

2 暑い地域の暮らし ～インドネシアでの生活～	・熱帯の分布と気候の特徴を理解できる。 ・熱帯に暮らす人々の生活の特徴を、気候の特徴と関連づけて考察できる。	・景観写真や雨温図などを用いて、熱帯の分布の特徴と気候の特徴を理解している。(知技) ・熱帯に暮らす人々の生活の特徴を、インドネシアの人々の衣食住に着目して、自然環境との関わりから考察している。(思判表)
3 乾燥した地域の暮らし ～アラビア半島での生活～	・乾燥帯の分布と気候の特徴を理解できる。 ・乾燥帯に暮らす人々の生活の特徴を、気候の特徴と関連づけて考察できる。	・景観写真や雨温図などを用いて、乾燥帯の分布の特徴と気候の特徴を理解している。(知技) ・乾燥帯に暮らす人々の生活の特徴を、アラビア半島の人々の衣食住に着目して、自然環境との関わりから考察している。(思判表)
4 温暖な地域の暮らし ～スペインでの生活～	・温帯の分布と気候の特徴を理解できる。 ・温帯に暮らす人々の生活の特徴を、気候の特徴と関連づけて考察できる。	・景観写真や雨温図などを用いて、温帯の分布の特徴と気候の特徴を理解している。(知技) ・温帯に暮らす人々の生活の特徴を、スペインの人々の衣食住に着目して、自然環境との関わりから考察している。(思判表)
5 寒い地域の暮らし ～シベリアでの生活～	・亜寒帯(冷帯)・寒帯の分布と気候の特徴を理解できる。 ・亜寒帯(冷帯)・寒帯に暮らす人々の生活の特徴を、気候の特徴と関連づけて考察できる。	・景観写真や雨温図などを用いて、亜寒帯(冷帯)・寒帯の分布の特徴と気候の特徴を理解している。(知技) ・亜寒帯(冷帯)・寒帯に暮らす人々の生活の特徴を、シベリアの人々の衣食住に着目して、自然環境との関わりから考察している。(思判表)
6 高地の暮らし ～アンデス山脈での生活～	・世界の高地の分布や特徴と、アンデス山脈の気候の特徴を理解できる。 ・高地に暮らす人々の生活の特徴を、自然環境との関わりから考察できる。	・写真や雨温図などを用いて、世界の高地の分布や気候の特徴を理解している。(知技) ・高地に暮らす人々の生活の特徴を、アンデス山脈の人々の衣食住に着目して、自然環境との関わりから考察している。(思判表)
7 人々の生活と宗教の関わり	・世界の宗教の分布と特徴について、キリスト教、イスラム教、仏教を中心に理解できる。 ・世界の宗教が、人々の生活にどのような影響を与えているか考察できる。	・世界の主な宗教の分布と、キリスト教、イスラム教、仏教の特徴を理解している。(知技) ・世界の宗教とその地域の生活との関連を多面的・多角的に考察している。(思判表)
学習を振り返ろう ■ 1 章の問い ■ 世界各地の人々の生活は、自然環境や宗教とどのような関わりがあるのだろうか。	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然および社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然および社会的条件に影響を与えたりすることを理解できる。 ・世界各地における人々の生活やその変容をもとに、世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。その際、世界の主な宗教の分布についても理解できる。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然および社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。	・世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解している。(知技) ・世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察している。(思判表) ・世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとしている。(態度)

第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 1 アジア州の自然環境	・アジア州を区分し、それぞれの自然環境の特徴を理解するとともに、雨温図や景観写真などから気候の特徴を理解できる。 ・アジア州の気候の特徴について、季節風(モンスーン)の影響と関連づけながら考察し、表現できる。	・アジア州の自然環境に関する特徴を、雨温図や景観写真などから理解している。(知技) ・アジア州の気候の特徴について、季節風(モンスーン)の影響と関連づけながら考察し、表現している。(思判表)
2 アジア州の農業・文化と経済発展	・アジア州の農業や宗教、人口分布の特徴を、資料を活用して理解できる。 ・アジア州の農業地域の分布と人口分布とを関連づけ、その特徴を考察できる。	・農業地域や宗教別人口割合などの資料を活用し、アジア州における農業や宗教、人口分布の特徴を理解している。(知技) ・降水量と農業との関係や、農業と人口分布との関連について考察している。(思判表)
3 経済成長を急速に遂げた中国	・中国では急速な経済成長が進み、生活が変化していることを理解できる。 ・急速な経済成長に伴って進行する経済格差や環境問題などの課題について考察し、表現できる。	・さまざまな資料を読み取り、中国は多くの人口を抱えていること、工業化に伴い経済が成長していること、人々の生活が変化してきたことについて理解している。(知技) ・経済成長を急速に遂げたことで生じている中国が抱える課題について経済格差や環境問題などの側面から考察し、表現している。(思判表)
4 最も近い隣国、韓国	・韓国の生活・文化や産業の特色と、首都圏への一極集中による課題を理解できる。 ・韓国の生活・文化や産業の発展について、韓国と日本との関わりに着目しながら考察し、表現できる。	・さまざまな資料を活用して、韓国の生活・文化や産業の特色を理解している。(知技) ・韓国の生活・文化や産業の発展について日本との関わりや産業の側面などから考察し、表現している。(思判表)
5 経済発展を目指す東南アジア	・東南アジアの工業化について、資料から日本企業の進出増加やその背景について読み取り、理解できる。 ・急速に経済発展する過程で発生している問題について考察できる。	・進出した日本企業数の推移や進出の背景を資料から読み取り、東南アジアの工業化について理解している。(知技) ・経済発展の過程で発生している問題について、農村と都市の両方から考察している。(思判表)
6 産業発展と人口増加が急速に進む南アジア	・さまざまな資料を活用して、南アジアの経済発展の様子を理解できる。 ・インドで情報通信技術(ICT)産業が急速に成長した背景と貧困層の問題を、多面的・多角的に考察できる。	・南アジアの農業や工業の特色を資料から読み取らせ、産業の発展について理解している。(知技) ・インドで情報通信技術(ICT)産業が成長した背景やインドの抱える課題について、考察している。(思判表)
7 資源が豊富な中央アジア・西アジア	・中央アジアや西アジアの国々は原油などの鉱産資源に恵まれ、経済発展してきたことを理解できる。 ・他地域との結びつきに着目して、原油の生産や輸出が中央アジアや西アジアの発展に与える影響について、考察できる。	・資料から、中央アジアや西アジアでは原油などのさまざまな鉱産資源が産出されることと、そのおおまかな分布を理解している。(知技) ・原油で得た利益を、交通・通信網の整備や教育などの分野に活用している背景を考察している。(思判表) ・紛争が多いことの背景を、原油と関連させて考察している。(思判表)

学習を振り返ろう ■ 1 節の問い ■ アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。	・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・アジア州に暮らす人々の生活をもとに、アジア州の地域的特色を大観し理解できる。 ・アジア州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・アジア州の課題について、その影響と解決を主体的に追究できる。	・多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解している。（知技） ・アジア州の国々が急激な経済発展をしている理由を、人口増加や他地域との結びつきなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表） ・急激な人口増加と経済発展が、アジア州に暮らす人々に与える影響や、それによって生じる課題とその解決を、主体的に追究しようとしている。（態度）
第 2 節 ヨーロッパ州 1 ヨーロッパ州の自然環境	・ヨーロッパ州の地形の特色を、地図や景観写真から読み取り、理解できる。 ・ヨーロッパ州の気候の特色を、海流と偏西風の影響から考察できる。	・ヨーロッパ州の山地・山脈の分布と、アルプス山脈の北と南で異なる地形の特色を理解している。（知技） ・ヨーロッパ州の気候は、海流と偏西風の影響で緯度のわりに温暖であることを資料を活用しながら考察している。（思判表）
2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性	・ヨーロッパ州では、キリスト教による文化の共通性がある一方で、細かな違いによる多様性があることについて理解できる。 ・キリスト教の宗派と言語の分布には関連性があるということを考察できる。	・ヨーロッパ州の文化がキリスト教と深く結び付いていることに気づき、地理的広がりや歴史的背景を踏まえながら理解している。（知技） ・ヨーロッパ州の宗教と言語の特色を、共通性と多様性の両面から考察している。（思判表）
3 EU の成り立ちと人々の生活の変化	・EU 誕生までの経緯や、EU の成立による影響を理解できる。 ・EU 誕生の背景や、統合による人々の生活の変化について考察できる。	・EU 加盟によって加盟国や周辺国にもたらされる影響について理解している。（知技） ・EU 誕生の理由について考察し、表現している。（思判表） ・EU の統合により、人々の生活にもたらされた変化について考察している。（思判表）
4 ヨーロッパ州の農業と EU の影響	・ヨーロッパ州は、自然環境に応じた特色ある農業が各地で行われていることを理解できる。 ・EU の取り組みがヨーロッパ州の農業にもたらした影響を考察できる。	・ヨーロッパ州の農業の特色や地域での違いについて、自然環境と関連させて理解している。（知技） ・EU の取り組みがヨーロッパ州の農業にもたらす影響について考察し、表現している。（思判表） ・ブランド化や環境への配慮を進めた農産品・食品について考察し、表現している。（思判表）
5 ヨーロッパ州の工業と EU の影響	・ヨーロッパ州の工業の特色と、EU の統合が工業にもたらした影響や課題を理解できる。 ・EU の拡大によってみられる変化を資料から読み取り、その背景を考察できる。	・ヨーロッパ州の工業の特色について、歴史的背景と EU 統合による変化を踏まえて理解している。（知技） ・EU の拡大による、工業の変化について考察している。（思判表）
6 EU 統合による課題への取り組み	・EU が抱える経済格差の状況を、資料から読み取れる。 ・EU が模索する新たな統合のあり方について考察できる。	・EU の拡大に伴って、原加盟国と新規加盟国との間に経済格差が生じていることを、資料から読み取っている。（知技） ・現在のヨーロッパ州が抱える課題を踏まえて、EU が模索する新たな統合のあり方について考察し、表現している。（思判表）

学習を振り返ろう ■ 2 節の問い ■ ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきの強まりによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。	・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活をもとに、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し理解できる。 ・ヨーロッパ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。	・ヨーロッパ州の地域的特色について自然環境、文化、産業の特色を大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。（知技） ・EU 統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表） ・他地域との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及び EU 統合や文化の多様性に関わる課題を、よりよい社会の実現を視野に入れて主体的に追究しようとしている。（態度）
第3節 アフリカ州 1 アフリカ州の自然環境	・アフリカ州の自然環境の特徴を、地図や主題図を活用して理解できる。 ・アフリカ州の気候の特徴を、雨温図や植生から考察できる。	・アフリカ州の自然環境の特徴を、地図や主題図の読み取り、理解している。（知技） ・アフリカ州の気候の特徴を、植生や人々の暮らしと関連させて考察している。（思判表）
2 植民地支配の影響が残る産業	・アフリカ州の国々が植民地として支配されていた歴史を理解できる。 ・植民地時代の宗主国との結びつきについて、図表などから考察できる。	・アフリカ州の国々が植民地として支配されていた歴史や、かつて支配していた国とのつながりについて、地図を活用して理解している。（知技） ・アフリカ州の産業の発展や特色を、かつて植民地として支配していた国との結びつきと関連づけて考察している。（思判表）
3 アフリカ州が抱える課題とその取り組み	・アフリカ州が抱える課題について、資料を活用して理解できる。 ・アフリカ州の発展のために必要な取り組みや支援について追究し、考察できる。	・アフリカ州では、多くの国々が特定の農産物や鉱産資源の輸出に頼っていることを理解している。（知技） ・アフリカ州の発展のために必要な支援について、多面的・多角的に考察している。（思判表）
学習を振り返ろう ■ 3 節の問い ■ アフリカ州では、特定の産物に頼る経済によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。	・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・アフリカ州に暮らす人々の生活をもとに、アフリカ州の地域的特色を大観し理解できる。 ・アフリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・アフリカ州の歴史的な経緯に着目しながら、アフリカ州が抱える課題やその解決を主体的に追究できる。	・アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国との文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。（知技） ・輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察し表現している。（思判表） ・ヨーロッパ諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の地域的特色への関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。（態度）

第4章 北アメリカ州 1 北アメリカ州の自然環境	・北アメリカ州の地形について、土地の高低や景観から特徴を理解できる。 ・北アメリカ州の気候の特徴について、緯度や大陸内の位置から考察できる。	・北アメリカ州の地形について、土地の高低や景観から特徴を理解している。（知技） ・北アメリカ州の気候について、雨温図の読み取りや大陸内の位置から考察している。（思判表）
2 移民の歴史と多様な民族・文化	・北アメリカ州の移民の歴史をもとに、現在の人種や民族の分布との関連について資料から理解できる。 ・アメリカ合衆国の文化にみられる移民の影響について考察できる。	・北アメリカ州の移民と開拓の歴史について理解している。（知技） ・地図から、アメリカ合衆国における人種・民族の分布の特色を読み取っている。（知技） ・移民がアメリカ合衆国の言語や宗教、音楽などの文化や産業に与えている影響について、考察している。（思判表）
3 大規模な農業と多様な農産物	・アメリカ合衆国では、適地適作による大規模農業が行われていることを理解できる。 ・アメリカ合衆国の農業が世界に大きな影響力をもっている理由を考察できる。	・アメリカ合衆国の農業について、大規模農業と適地適作の面から理解している。（知技） ・資料を活用して、アメリカ合衆国とカナダのおおまかな農業地域の分布を理解している。（知技） ・アグリビジネスや穀物メジャーが世界に与える影響について、アメリカ合衆国の農業の特色を踏まえて考察している。（思判表）
4 世界をリードする先端技術	・アメリカ合衆国の工業の移り変わりを理解できる。 ・アメリカ合衆国で先端技術産業が盛んな理由を考察できる。	・アメリカ合衆国の工業の特色を、重工業から先端技術産業への変化に着目して理解している。（知技） ・アメリカ合衆国で先端技術産業が発達した理由について考察している。（思判表）
5 アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題	・アメリカ合衆国における、大量生産・大量消費の生活様式の特色とその課題を理解できる。 ・アメリカ合衆国の持続可能な社会への取り組みについて考察できる。	・アメリカ合衆国における、車社会や大量生産・大量消費の生活様式、文化の特色と課題を理解している。（知技） ・アメリカ合衆国の持続可能な社会への取り組みについて考察している。（思判表）
学習を振り返ろう ■ 4 節の問い ■ 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。	・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・北アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解できる。 ・北アメリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・北アメリカ州の強大な産業の発展に着目しながら、北アメリカ州が抱える課題やその解決を主体的に追究できる。	・世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。（知技） ・北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子をもとに、多面的・多角的に考察している。（思判表） ・世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。（態度）

第5節 南アメリカ州 1 南アメリカ州の自然環境	・南アメリカ州の地形の特色を、地図などの読み取りから、理解できる。 ・南アメリカ州の気候の特色を、標高や緯度に着目して考察できる。	・南アメリカ州の自然環境について、雨温図や景観写真などから特色を読み取らせ、理解している。（知技） ・南アメリカ州の気候について、緯度や標高と関連づけて多面的・多角的に考察している。（思判表）
2 多様な民族や文化が混ざり合う社会	・先住民と移民の文化が融合する南アメリカ州の人々の生活について、さまざまな資料を活用して理解できる。 ・南アメリカ州の文化の成り立ちや、現在までの変化と課題について多面的・多角的に考察できる。	・南アメリカ州の自然環境について、雨温図や景観写真などから特色を読み取り、理解している。（知技） ・南アメリカ州の気候について、緯度や標高と関連づけて多面的・多角的に考察している。（思判表）
3 大規模化する農業と成長する工業	・南アメリカ州の農業や工業の発展の特色を、歴史的背景や豊かな資源から理解できる。 ・農業や工業の発展が南アメリカ州の経済に与えた影響について、多面的・多角的に考察できる。	・農業や工業の発展の特色について、さまざまな資料を活用しながら理解している。（知技） ・農業や工業の発展が南アメリカ州の経済に与えた影響や、発展の一方でスラムが形成されて貧富の差が拡大していることなどを、多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表）
4 ブラジルにみる開発と環境保全	・アマゾンの開発が地域の環境や人々の生活に与えた影響について、図やグラフの読み取りから、理解できる。 ・開発と環境保全の両立について、多面的・多角的に考察できる。	・アマゾンの熱帯林開発とその保全の取り組みについて、資料を読み取り、理解している。（知技） ・環境保全をめぐる新たな課題について多面的・多角的に考察している。（思判表） ・環境問題に関心をもたせ、開発と環境保全の両立について、考察している。（思判表）
節の学習を振り返ろう ■5 節の問い■ 南アメリカ州では、農地や鉱山の開発によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。	・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、南アメリカ州の地域的特色を大観し理解できる。 ・南アメリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・南アメリカ州の地域的特色と開発に伴う環境問題について主体的に追究できる。	・多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを理解している。 ・ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連づけて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。（思判表） ・農地や鉱山の開発に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と開発に伴う環境問題について主体的に追究しようとしている。（態度）
第6節 オセアニア州 1 オセアニア州の自然環境	・オセアニア州における三つの地域の地形の特徴を、地図や景観写真、本文から読み取り、理解できる。 ・オセアニア州における三つの地域の気候の特徴を、景観写真や雨温図から読み取り、考察できる。	・オセアニア州における三つの地域の地形の特徴を、地図や景観写真を活用しつつ本文を読み取り、理解している。（知技） ・オセアニア州における三つの地域の気候の特徴を、景観写真や雨温図から読み取り、考察している。（思判表）

	2 移民の歴史と多文化社会への歩み	・オセアニア州への移民の歴史と、移民の出身国が変化してきていることを資料から読み取り、理解できる。 ・オセアニア州の白豪主義から多文化社会への歩みを、歴史的経緯や先住民との関わりから考察できる。	・建物や宗教、言語などから、オセアニア州の植民地支配の歴史を理解している。（知技） ・移民の出身国が多様化してきた理由と多文化社会への取り組みを理解している。（知技） ・オーストラリアとニュージーランドの多文化社会への歩みやその重要性について、歴史的背景を踏まえて考察し、表現している。（思判表）
	3 他地域と結びついて発展する産業	・オセアニア州の農業や鉱業の特色を理解し、日本との関わりについて資料から読み取ることができる。 ・オセアニアの国々が政治や経済でアジアとの結びつきを強めようとしていることについて、その背景や影響を考察できる。	・オセアニア州の農業や鉱業の特色を理解している。（知技） ・オセアニアの国々と日本との結びつきを資料から読み取ることができる。（知技） ・オセアニアの国々が、政治や経済でアジアとの結びつきを強めようとしていることを理解したうえで、その背景や影響を考察している。（思判表）
学習を振り返ろう ■ 6 節の問い ■ オセアニア州では、他地域との結びつきの変化によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。		・地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できる。 ・オセアニア州に暮らす人々の生活をもとに、オセアニア州の地域的特色を大観し理解できる。 ・オセアニア州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・白豪主義から多文化社会への変化に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究できる。	・オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。（知技） ・オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。（思判表） ・オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究しようとしている。（態度）